

松華堂乃至松華堂書店とは何ぞや（三訂稿）

—明治警察史の一齣—

（令和4（2022）年8月11日（木）現在）

（補正経緯）

（HP初載） 平成21（2009）年6月22日（月）初稿作成

平成23（2011）年1月30日（日）改訂稿作成

（東京書籍商組合編『東京書籍商伝記集覧 日本書誌学大系 2』（青裳堂書店、昭和53年4月30日刊）関係記載分を追加）

平成23（2011）年3月6日（日）再訂稿作成

（一部追加、誤植修正その他）

令和4（2022）年8月11日（木）三訂稿作成

（レイアウト全面変更の上、一部補正、追加）

〔平成21（2009）年6月22日初稿〕（ただし、「本HP別稿」関係のみ一部補正）

- ・明治期～昭和戦前期の代表的警察関係書籍出版社の系譜如何。
- ・例えば、畏三堂（須原鉄二）⇒警眼社（田山宗堯）⇒松華堂乃至松華堂書店（社主：横尾留治）もその一つか。
- ・畏三堂（須原鉄二）、警眼社（田山宗堯）については、既載¹。〔その他、清水書店については新稿あり²。〕
- ・松華堂は、大正末に松華堂書店に改称しているようであるが、その後も松華堂の名称が使われていることもあり、このあたりの経緯は不明。
- ・『全国出版業者調』（昭和10年4月警保局図書課、「凡例」：昭和10年11月警保局図書課）18頁では、次のとおり。
「営業所名屋号 松華堂 営業主又ハ責任者 横尾留治 電話番号 神田2,310
営業所々在地 神田区錦町1ノ10（「1ノ14」とするものもある?。）
出版種別（空白）主幹 主宰者 横尾留治」
- ・松華堂乃至松華堂書店とは何ぞや ⇒明治34（1901）年創業
- ・松華堂書店刊行書籍：国立国会図書館蔵書検索、nacsis webcatで、松華堂、松華堂書店

¹ 本HP別稿「内務省警視局御用御書物師須原鉄二とは誰ぞ—明治警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/subara.pdf>〉、

同「警眼社社主田山宗堯とは誰ぞ—『警察協会雑誌』との関連をめぐって— — 明治警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tayama.pdf>〉各参照。

² 本HP別稿「清水書店とは何ぞや—須原鉄二との関連で— —明治・大正警察史の一齣—」参照。

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shimizushoten.pdf>〉（平成23年3月6日追加）

を検索のこと。

・松華堂乃至松華堂書店は、戦後の警察関係書籍の大手出版社である立花書房の前身か。

「立花書房HP」：〈<http://www.tachibanashobo.co.jp/blog/company.html>〉⇒

〈<https://tachibanashobo.co.jp/>〉参照。

・国立国会図書館蔵書検索によれば、本来の立花書房刊のもの他に、平成8（1996）年～平成16（2004）年に、「松華堂刊行、発売立花書房」とする書籍が、20冊程刊行されている。

・松華堂の創業者は、「横尾留治」氏である。

・日本法律学校（明治36（1903）年日本大学に改称³）の機関誌『日本法政新誌』を閲覧すると、同誌の「年賀挨拶」広告の箇所等に、「横尾留治」氏の名前を見出し得る。

・例えば、「「恭賀新年」（日本大学 学長 松岡康毅 理事 戸水寛人 理事 平沼騏一郎 事務長 加納政太郎）、「恭賀新年」（日本大学 教務課・・・編集部会長 横尾留治他）、「恭賀新年」（法政学会 会長 戸水寛人 加納政太郎 横尾留治他）『法政新誌』第8巻第1号（明治37（1904）年1月20日刊）巻末折込広告」、「「謹賀新年」（日本法政学会会長 戸水寛人、編輯監督 中村進午 明治四十年一月）、（日本法政学会 横尾留治他8人の氏名あり。）』『日本法政新誌』第11巻第1号（第115号、明治40（1907）年1月10日刊）折込広告」⁴等。

・⇒「横尾留治」氏は、日本法律学校（日本大学）と関係ありしこと判明。

・松華堂の当時の住所としては、例えば、『故海舟遺稿 海舟日記』の広告（『日本法政新誌』第12巻第4号、明治41年4月1日刊）に二つ記載あり。⇒「松華堂書店 神田区錦町1丁目12番地、神田区猿樂町2番地」

・『日本大学百年史』第1巻（日本大学、平成9年3月31日刊）443、444頁「日本法律学校職員調 明治33年10月1日調」

・湯地幸平（1870～1931、日本法律学校卒、台湾総督府警察本署長、内務省警保局長、貴族院議員）

〈<http://kotobank.jp/word/%E6%B9%AF%E5%9C%B0%E5%B9%B8%E5%B9%B3>〉

・横尾留治（1864～?）

・これらからすると、横尾留治氏は、日本法律学校に就職した後、明治34（1901）年に、警察、法律関係出版の松華堂を創業したものかと思われる。

・国立国会図書館近代デジタルライブラリーで「松華堂」を見ると、12件表示されているが、なぜか明治30年代から明治44年刊行のもの発行者には「横尾留治」の名はなく、明治45年刊行のものから、発行者に「横尾留治」の名が出てくる。日本大学と離れ、完全に独立したためかとも思われるが、詳細不明。

・聖書関係出版で有名であった日英堂主人も、「横尾留治」氏のようなようである。

〈<http://stonepillow.dee.cc/opening.html>〉参照。

³ 明治36（1903）年8月19日 日本法律学校、専門学校令による大学組織たる「日本大学」と改称。

〈<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E5%A4%A7%E5%AD%A6>〉

⁴ 『法政新誌』（日本法律学校内 法政学会、明治30（1897）年1月創刊）、『日本法政新誌』（日本大学 日本法政学会、明治38（1905）年1月改題）

・高橋雄豺（1889～1979）⁵・（ききて・註記）中原英典（1915～1979）⁶「警察勤務の思い出（2）—日本警察の歩みを語る（6）」『警察研究』第46巻第7号（昭和50年7月刊）（7）38、39頁には、高橋博士の発言、中原氏の註として、次のようにある。なお、[]内は編者が付した。

「それからもう一つ、これは職務に関係ないが、私が自分の著書というものを初めて書いたのもこの頃〔大正5年7月7日任静岡県警視、警察部保安課長、大正8年9月11日任静岡県理事官、内務部学務課長〕です。それは、松華堂の横尾（留治）さんが、未だ和服で方々歩いている頃だ。よく夜行で静岡に来て、朝早く私の官舎へやって来た。私の著書の第一号というのは、その時横尾さんに頼まれて出来たのです。大正七年、「警察法大綱」〔中原註/省略〕（5）*。これは初め単行本で書いたのを、後で横尾さんが「警務全書」に入れた。もともとは「全書」のために書いたのではなかったのです。」

〔平成23（2011）年1月30日改訂稿として「追加」したもの〕

・初稿で、「聖書関係出版で有名であった日英堂主人も、「横尾留治」氏のようなのである。〈<http://stonepillow.dee.cc/opening.html>〉参照。」と誌したが、最近、知人より、東京書籍商組合編『東京書籍商伝記集覧 日本書誌学大系 2』（青裳堂書店、昭和53年4月30日刊。本書は、大正元（1912）年11月刊の東京書籍商組合編『東京書籍商組合史及組合員概歴』の影印版）82～83頁に、「日英堂 横尾留治」の記載があること教示を得た。従前、「松華堂」乃至「松華堂書店」ばかりに目が向き、「日英堂」関係箇所を見落としていたことを恥ずる次第である。これにより、同氏のことは、かなり判明したが、いずれ修正することとし、ここでは、そのまま、転記しておくだけにとどめる。

「・日英堂 横尾留治 初代（元治元〔1864〕年四月二十四日生） 東京市神田区錦町 創業 明治四十一年〔1908〕年〔横尾留治氏肖像 省略〕
生国ハ宮城県伊具郡丸森町ニシテ明治十八〔1885〕年宮城県師範学校ヲ卒業ス、其後日本大学（旧日本法律学校）ニ入り二十八〔1895〕年七月卒業シ、同三十〔1897〕年ヨリ四十年〔1907〕迄日本大学出版部長トシテ勤務ス。明治四十一年〔1908〕年始メテ松華堂ヲ経営シ、専ラ法律経済書ヲ発行シ、次デ日英堂ヲ開店シ中等教科書ヲ出版シ現ニ齋藤秀三郎⁷〔1866～1929〕著書ノ発売所タリ。」

⁵ 本 HP 別稿「高橋雄豺博士著作目録（再訂稿）」参照。

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatvoshi/takahashi001.pdf>〉

⁶ 本 HP 別稿「中原英典氏明治警察史研究関係著作目録抄」参照。

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatvoshi/nakahara001.pdf>〉

⁷ 齋藤秀三郎（1866～1929）：

〈<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%96%8E%E8%97%A4%E7%A7%80%E4%B8%89%E9%83%8E>〉

【附録】明治警察史コーナーHP 項目一覧（抄）（令和4（2022）年8月11日追加）

- ・「法制史学者著作目録選」中「明治警察史コーナー」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉
- ・「松井茂久『警官陶冶篇』研究史抄一本 HP 収載「PDF 版松井茂久『警官陶冶篇』検討資料」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/matsui002.pdf>〉
- ・「PDF 版松井茂久『警官陶冶篇』（増訂三版、明治25（1892）年2月18日刊）」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/matsui001.pdf>〉
- ・「大森鍾一『直興遺篋抄』—「長男仕官に就き与へたる訓戒の書」—
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/omori001.pdf>〉
- ・「川路大警視青山墓前の頌徳碑検討一斑（碑文全文、付句読点文、書下し文）—故陸軍少将兼大警視正五位勲二等川路君墓表編修副長官従五位重野安繹撰— 一明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kawaji002.pdf>〉
- ・「佐和正関係文献抄—明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sawatadashi.pdf>〉
- ・「坂元純濤、國分友諒両氏の墓所について—中原英典氏のお問いかけを追って—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sakamoto001.pdf>〉
- ・「國分友諒顕彰碑について—原田弘先生のお教えに接して—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kokubukenshoji.pdf>〉
- ・「篠崎五郎関係資料抄—台湾出兵時の徴集隊指揮副長の一人— 一明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shinozaki.pdf>〉
- ・「後藤松吉郎とは誰ぞ—明治警察史・日本統治下台湾警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/goto001.pdf>〉
- ・「裁判医学校乃至警視医学校関係文献一斑—明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/saiban001.pdf>〉
- ・「『無冤録述』検討一斑—江戸期及び明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/muenrokujutsu.pdf>〉
- ・「続・『無冤録述』の初歩的検討—江戸期及び明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/muenrokujutsuzoku.pdf>〉
- ・「ヘーン大尉関係文献抄（再訂稿）」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/hoen001.pdf>〉
- ・「明治中葉警官練習所訳官久松定弘等及び筆記者井土経重（靈山）検討一斑—明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/yakkan.pdf>〉
- ・「岩瀬忠震関係文献抄（六訂稿）—向島・ヘーン大尉表功碑探訪余聞—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/iwase001.pdf>〉

- ・「内務省警視局御用御書物師須原鉄二とは誰ぞ—明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/subara.pdf>〉
- ・「清水書店とは何ぞや—須原鉄二との関連で—明治・大正警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shimizushoten.pdf>〉
- ・「須原鉄二と清水書店創業者葉多野太兵衛について—明治・大正期出版業史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/hatano001.pdf>〉
- ・「警察監獄学会及び『警察監獄学会雑誌』 検討一斑—明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kangokugakkai.pdf>〉
- ・「警眼社社主田山宗堯とは誰ぞ—『警察協会雑誌』との関連をめぐって— 明治警察史の一齣—」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tayama.pdf>〉
- ・「松華堂乃至松華堂書店とは何ぞや—明治警察史の一齣—」（本稿）
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shokado.pdf>〉
- ・「高橋雄豺博士著作目録（再訂稿）」
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/takahashi001.pdf>〉

【関連事項】（令和4年8月11日追加）

- ・法制史学会： 〈<https://www.jalha.org/>〉
- ・国立国会図書館： 〈<https://www.ndl.go.jp/>〉
- ・国立国会図書館デジタルコレクション 〈<https://dl.ndl.go.jp/>〉
- ・国立国会図書館個人向けデジタル化資料送信サービス（個人送信）（令和4（2022）年5月19日開始）
〈https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html〉
- ・国立国会図書館次世代デジタルライブラリー（令和4（2022）年4月1日追加）
〈<https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/>〉
- ・CiNii： 〈<https://ci.nii.ac.jp/>〉 ⇒ 〈<https://cir.nii.ac.jp/>〉（【[2022] 4/18 更新】CiNii ArticlesのCiNii Researchへの統合について）、〈<https://ci.nii.ac.jp/books/>〉

（了）